



宮内 保 議員



移住・定住及び地域振興の推進について

問 本市の地域おこし協力隊の現状と活動内容は。

答 現在1名に地域おこし協力隊を委嘱し、移住希望者からの相談対応や、市内を案内するツアーの実施、移住される方、された方のサポート等を行っている。また、移住者を呼び込むための移住相談会への参加や開催、SNSを使つてのPR等も行っている。

問 他市では就農希望者を地域おこし協力隊員として委嘱し、経営や技術を学びながら農家研修をする仕組みを整えており、隊員の就農に結び付けている。本市においても、このような取り組みはできないか伺う。

答 地域おこし協力隊の制度の目的は、協力隊が本市において地域協力活動を行いながら、最終的に本市に定住してもらうもの。協力隊を受け入れる体制、任期終了後に定住に結びつくようなサポート体制の整備も必要と考え

る。関係部署や関係機関等と具体的な協議、検討を行いながら取り組んでいきたい。

農業の振興について

問 令和7年3月までに策定が義務付けられた「地域計画」について、進捗状況を伺う。

答 現在、海上地域の3つの小学校区で農業関係者の話し合いの場を設け、現況地図により1筆ごとに耕作者や土地の所有者の方々と調整を行い「目標地図」を作成している。残りの小学校区については、順次話し合いの場を設け、来年3月末までに公表する予定。

問 「目標地図」の作成に向けては、まず農地の受け手となる認定農業者や担い手の意向をしっかりと把握することが肝要。耕作放棄地や条件の悪い小さな畑や田んぼ等は誰が農地を引き受けて耕作するのか。

答 耕作放棄地や条件の悪い農地等については、地域計画策定に向けた農業者との話し合いの中で、農地を引き受けてくれる耕作者等について調整していきたいと考えている。

その他の質問事項

- 空き家対策について
- 水産業の振興について

生涯活躍のまち・あさひ形成事業について

問 ホームページに中心市街地との連携イメージとして、イオンタウンが繁栄すれば、旭駅の中心市街地も繁栄するというような事が載っている。おひさまテラスをこれから30年使っていくとして、40億円ぐらいのお金をここに投入する。これはどうなのか。

答 事業者グループが一般社団法人みらいあさひを設立した。「生涯活躍のまち」の部分が繁栄してくれば、その流れを旭駅周辺のほうにも持っていくという活動を、今している。

問 おひさまテラスの利用状況について、市長の報告では令和5年度は約18万人とのことだが、正確な利用状況を伺う。

答 令和5年度は、18万2237人が訪れた。いろいろなイベントや講座を行っており、令和5年度は合計137回実施、3807人の参加があった。

問 18万人を365日で割ると、1日約500人。2階のおひさまテラスに、休みもあるが毎日500人も来ていたのか。

答 利用者数については、おひさまテラスだけをカウント。入口の顔認証でだいたいの年齢と性別をカウントしている。あくまでも、施設に入ってきた人数。

都市計画区域の拡大について

問 都市計画区域を旧3町へ拡大し、建ぺい率等により、建て替えができなくなった場合、市は支援策等の補助をするのか。

答 援助等は今のところ考えていないが、個別の相談が適切ではないかと考えている。例えば建ぺい率では20坪の家を20坪のまま建て替えるのが難しいだけであつて、少し減らして18坪になれば建つ。セットバックについても家を建てる位置等について、個別に相談に応じる。

問 都市計画税の課税の有無を事前に知らせるべきだ。

答 現在のところ、まだ方針が定まっていない。区域の見直しと併せて課税区域等を研究中方針が定まったら、周知していく。

その他の質問事項
○学校再編計画について



松木源太郎 議員

